

## こまつな

「こまつな」には、「こまつな」「非結球あぶらな科葉菜類」「葉菜類」または「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。(非結球あぶらな科葉菜類の項目 参照)

———— 発病・加害時期  
 ===== 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普	通	●	■	●	■	●	■	●	■	●	■	●	■
		は種	収穫										
白	斑	病											
萎	黄	病											
白	さ	び											
根	こ	ぶ											
リ	ゾ	ク	ト	ニ	ア								
ア	ブ	ラ	ム	シ	類								
コ			ナ		ガ								
ハ	イ	マ	ダ	ラ	ノ	メ	イ	ガ					
ネ	キ	リ	ム	シ	類								
ヨ	ト	ウ	ム	シ	類								
ア		オ		ム	シ								
キ	ス	ジ	ノ	ミ	ハ	ム	シ						
ケ					ラ								

## 白斑病

### 留意事項

- 1 気温が低く、湿潤な条件が続く春期や秋期で発生しやすい。
- 2 QoI剤<< 1 1 >>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 7日/2回】

## 萎黄病

### 留意事項

- 1 病原菌は根に侵入し、道管に沿って下から移動するため、葉の黄化も下から進行する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 株元を切断すると、維管束が変色していることがある。
- 3 根傷みによって発生が助長される。

#### 防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 下記の薬剤で土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)
  - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>
  - 【20～30kg/10a 所定量を均一に散布して土壌と混和 は種10日前/1回】
- 4 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

## 白さび病

#### 留意事項

- 1 早春や晩秋に発生が多い。
- 2 降雨が多く、湿度が高い時期に発生が多い。
- 3 QoI剤<< 1 1 >>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

#### 防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ユニフォーム粒剤](#) < 4 > << 1 1 >> 【9kg/10a 全面土壌混和 は種前/1回】
  - ・ [リドミル粒剤2](#) < 4 > 【10kg/10a 全面土壌混和 は種前（収穫21日前）/1回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 7日/2回】

## 根こぶ病

#### 留意事項

- 1 春～秋に発生するが、夏の高温期にはやや少ない。
- 2 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。

#### 防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
- 4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)
  - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【20～30kg/10a 所定量を均一に散布して土壌と混和 は種10日前/1回】

5 は種前に下記の薬剤を施用する。

・ [フロンサイド粉剤](#) < 2 9 > 【30kg/10a 全面土壌混和 は種前/1回】

6 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

## リゾクトニア病

### 留意事項

- 1 苗立ち枯れ症状は高温期に多発する。尻腐れ症状、葉腐れ症状は低温期に収穫する場合に発生が多い。
- 2 土壌伝染する。
- 3 高温多湿条件で発生が多い。

### 防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 は種前に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [フロンサイド粉剤](#) < 2 9 >
    - 【立枯病（リゾクトニア菌） 30kg/10a 全面土壌混和 は種前/1回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [リゾレックス水和剤](#) < 1 4 > 【1000倍 14日/2回】

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。
- 2 少雨のときに多発しやすい。

### 防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により、被害軽減に努める。
- 2 は種前～は種時に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [アクタラ粒剤5](#) < 4 A > 【6kg/10a 作条混和 は種時/1回】
  - ・ [ジェイエース粒剤](#) < 1 B > 【3～6kg/10a 作条散布後土壌混和 は種前/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤または、非結球あぶらな科葉菜類に登録のある薬剤を散布する。（非結球あぶらな科葉菜類の項 参照）
  - ・ [ダントツ水溶剤](#) < 4 A > 【2000～4000倍 3日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## コナガ

### 留意事項

- 1 葉裏に網のようなまゆをつくってサナギになる。
- 2 春～初夏、秋の発生が多い。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アファーム乳剤](#) <6> 【2000倍 3日/2回】
  - ・ [ディアナSC](#) <5> 【2500～5000倍 前日/2回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13> 【2000倍 3日/1回】
  - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【1000倍 前日/2回】
  - ・ [BT剤](#) <11A> (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

## ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)

### 留意事項

- 1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

### 防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤または、非結球あぶらな科葉菜類に登録のある薬剤を散布する。(非結球あぶらな科葉菜類の項 参照)
  - ・ [ディアナSC](#) <5> 【2500～5000倍 前日/2回】

## ネキリムシ類

### 留意事項

- 1 根の株元をかみ切り、株はそこから折れて枯死する。

### 防除方法

- 1 ほ場の中および周辺の除草を徹底する。
- 2 は種時～定植時に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) <1B>  
【6kg/10a 全面土壌混和 は種時又は定植時/1回】または  
【6kg/10a 土壌表面散布 出芽時/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## ヨトウムシ類

### 留意事項

- 1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤または、非結球あぶらな科葉菜類に登録のある薬剤を散布する。(非結球あぶらな科葉菜類の項 参照)
  - ・ [ディアナSC](#) <5> 【ハスモンヨトウ・ヨトウムシ 2500～5000倍 前日/2回】
  - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【ハスモンヨトウ 1000倍 前日/2回】
  - ・ **BT剤** <11A> (IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照)

## アオムシ

### 留意事項

- 1 幼虫による被害は春と秋に多い。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。

### 防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アディオン乳剤](#) <3A> 【2000倍 前日/3回】
  - ・ [ディアナSC](#) <5> 【2500～5000倍 前日/2回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13> 【2000倍 3日/1回】
  - ・ **BT剤** <11A> (IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照)

## キスジノミハムシ

### 留意事項

- 1 高温乾燥が続くと発生が多くなる。

### 防除方法

- 1 シルバーマルチを利用する。
- 2 は種時に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) <1B> 【6kg/10a 全面土壌混和 は種時/1回】
- 3 発生を認めたら非結球あぶらな科葉菜類に登録のある薬剤を散布する。  
(非結球あぶらな科葉菜類の項 参照)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## ケラ

### 防除方法

1 は種時に下記の薬剤を施用する。

- ・ [ダイアジノン粒剤5](#) < 1 B > 【6kg/10a 全面土壌混和 は種時/1回】

---

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。